

「超簡単! 豆電球工作(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

3年生の理科では「ものづくり」が大切だ。豆電球の単元など、ほとんど「ものづくり」だけで終わってしまうほど、子どもたちは夢中になる。他のものづくりとちがうことは「光ることで意味のあるものづくり」という点だ。普通は、単元の終わりに、発展的な扱いにすることが多い。しかし私は、豆電球との出会いの場面で、簡単な工作を入れると、その後の活動に効果的だと思っている。



作り方の超簡単だ。画用紙を4分の1にカットしたものの中央付近に穴をあける。穴は豆電球の口金より小さめの直径7mmぐらいが良い。鉛筆でも簡単にあけられる。穴に合わせて絵を描き、そこに豆電球をねじ込んで、裏からソケットで固定する。



点灯すると、豆電球だけが光って見えて面白い。この作品は「ダイヤモンド富士」だそうだ。



作品は同じものが2つなくて、見ていて本当に楽しい。「光って意味のあるもの」という制作コンセプトをよく考えた作品が多い。これは「UFO」



「工事現場のおじさん」というかわいい作品。ヘッドランプのところが光るのが良い。子どもは、自分の描いた絵の一部が光るのが、面白くて仕方ないのだ。



これは「一つ目のおばけ」なかなかシュールな作品だ。こうした作品を見ていると、私自身が一番面白くて、結局全員の写真を撮ってしまった。